



支援部ネット

令和4年度

特別号①

すながわ高等支援学校

研究支援部



＊初めに

この支援部ネットでは、支援教育に関する情報や校内での取り組みなどをお伝えしていきます。今回は、3年生で取り組んだ部落問題に関する人権学習についてご紹介します。ぜひご一読ください。

＊うわさや言い伝えの中には…

人権学習の第1回めは、うわさや言い伝えの中にある「偏見」について考えました。「大阪の人は言葉が乱暴で、ガラが悪い」「ブラジルから来た子は、サッカーがうまい」「A型の人はいくらで、O型のおおざっぱだ」。このような言い方を聞いたことがありますか、と問いかけると、ほとんどの生徒が「ある」と答えました。このような根拠のないイメージやうわさ・偏った判断をする見方が、「偏見」です。この「偏見」に、好き嫌いの感情や優劣の考えが付き、それが行動に移ると「差別」につながる可能性があります。偏見から差別が生まれる仕組みを学び、差別を生まないためにはどうすればよいのかを考えました。

●生徒の感想より

- ・見ためや自分の思い込みで判断しない。一度関わってみないと本当の答えがわからない。
- ・うわさだけで行動するのはよくない。うわさを信じている人に、そんなことない、と言ったりする。
- ・相手をもっと理解できるように努力する。
- ・偏見で決めつけるのはダメだなと思いました。たまに偏見で言うときがあるのでやめます。

＊「ちがいのちがい」

人権学習の第2回めは、「ちがいのちがい」について、みんなで考えました。「日本人のAさんは簡単にアパートを借りられるが、外国人のBさんはなかなか借りることができない」「マラソン大会で、男子は5km走り、女子は3km走る」「あるレストランでは、盲導犬の入店は認めているが、ペットの入店は認めていない」。このような「ちがい」を、あってもよいものとあってはいけぬものに振り分けます。難しいものもありましたが、お互いの考えを交流しながら、班のみんなで考えました。この学習を通して、文化や個性の多様性からくるちがいと、自分の意志ではどうしようもできない差別につながるちがいがあることに気付くことができました。

●生徒の感想より

- ・どこまでが差別でどこまでがいいのかしっかり考える時間になりました。
- ・あってもいけないちがいは、無くならないといけないと思いました。
- ・個性はあってもいいちがいで、自分ではどうにもできないちがいが、あってもいけないちがいだということがわかりました。



❄️「部落差別」とは？

人権学習の第3回めは、「部落差別」について学習しました。前時の「ちがいのちがい」にあった「ある会社では、A町出身のBさんは採用するが、C町出身のDさんは採用しない」ということが、かつて実際にあったということを切り口に、住んでいるところ・生まれ育ったところによって差別されること、それが「部落差別」である、ということを知りました。

また、各班を村に見立てた「すながわ郷物語」を演じることによって、どのように差別意識が生まれてきたかを体験的に学ぶことができました。お代官様からのお達しによって一部の村に様々な制限がなされ、その村に対する差別意識が長い年月をかけてできあがり、今でも偏見だけが残っている、という差別の仕組みに気付くことができました。



❄️人の気持ちにつなごう

人権学習の最後には、関西大学社会学部の内田龍史教授を講師にお招きし、「部落差別のいまと被差別部落の人びとの想い」をテーマに出前授業を行いました。被差別部落の人々は魅力あるまちづくりをすすめてきたのに、インターネット上に流れている一方的に決めつけられた情報によって辛い思いをしていること、また、結婚差別を受け苦しい思いをしている人がいることを学びました。

「差別を受けてきた人たちの気持ちにつなごう」をめあてに行いましたが、このような当事者の方々の想いは、生徒たちの琴線に触れるものがあつたようです。お話の最後の「差別のない社会をつくるためには仲間が必要」ということばは、自分にはどのようなことができるか、を一人ひとりが考えるきっかけとなりました。



●生徒の感想より

- ・インターネットにはウソの情報も流れていて、それを信用してしまうと自分も差別する側になってしまうことがわかりました。自分が差別する側にならないために、部落の人たちの話を聞いて友だちになり、差別をしないようにすると同時に、差別がなくなるようにしたいと思いました。
- ・魅力ある街をつくってきたのに、相手が傷つくような言葉を言ってほしくないと感じた。部落差別を受けた人は全く責任がないことに気付いた。
- ・一番大事なのが差別をしないこと。一人ひとりの個性を知ろうとしたり、わかってあげること。もし誰かが差別するものなら、自分がその中に入って止めたいと思いました。
- ・私が思う差別をなくす方法は、相手のことを理解することです。勝手に決めつけるのは良くないので、気を付けようと思いました。

❄️社会に出るみなさんに

卒業して広い社会に出た時、いつか差別と出会うことがあるかもしれません。もし出会ったときは、3年間の人権学習で得た知識と人権感覚と判断力に、少しの勇気をプラスして、「それはおかしい。間違っている」と指摘できる人であってほしいと思います。あなたと、あなたの周りの人、そしてすべての人が幸せに生きられる社会を、ともにつくっていきましょう。